

寛永諸家譜

藤原氏丙十冊之内五
秀郷流

内閣文庫		
番號	和	20199
冊數	186 (91)
函號	76	1

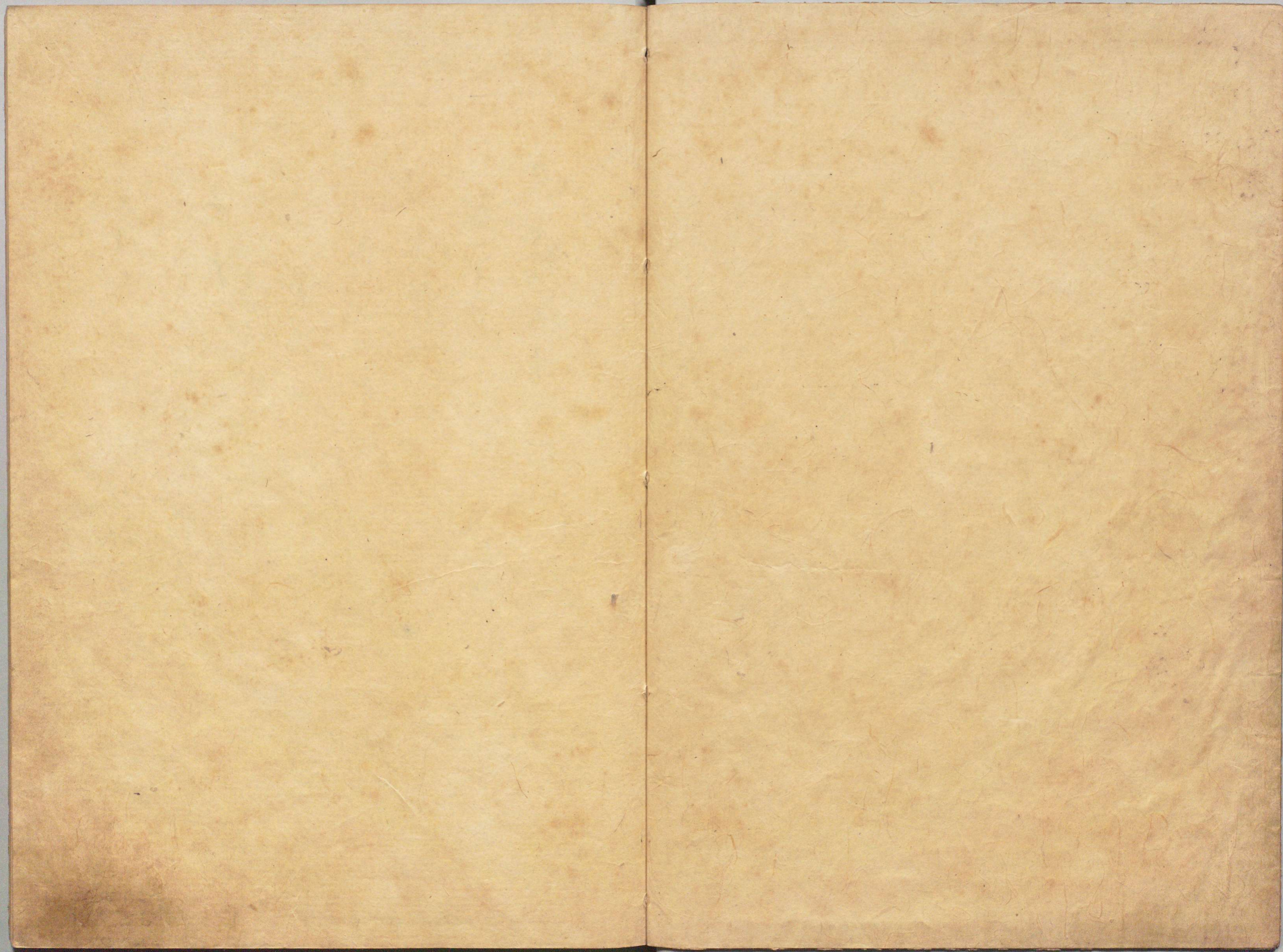


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak





青山

天方

寛永諸家系圖傳

藤原氏

秀郷流

青山

丙丑 小家

浅草文庫

家傳よりいへる秀郷の苗裔江列
藩生の庶流かりのち三列より
一は里額田郡百々村と領も累
代清富家より一より一より一より
と云く

忠門

友八郎 在太史

永禄六年三列本願寺つ徒一揆の時

あむく軍忠とてげふと

天正三年大忍弥太郎逆んとう

えさそ武田勝頼と忍崎乃城

いふれえとてあれども隠謀露頭せ

弥太郎誅せられぬ勝頼とてと

びく西谷河足助の急にお張と

先手乃兵とてくく小丸安戸急

り一足づれ入民屋に火とてと

うにとひく松平太清つ大史あ

びり忠門使とりく忍崎

告とてあつちとせむつて挑つて

月脇村左石りりりりりりりり

終に討死とて時に年六十又

重成ちか

宗太師そうだいし

子孫別しそんべつ一系圖けいづと歌うた

忠成ちか

常陸介ひろはのすけ

播磨守はりもの

初はつ乃名な八女や桑くわ門かど

天正三年てんしゅうさん

父忠門ちゅうもん我兄われあにの母ははの家督けとく

とつぎく百もも村むらと願ねがふ

同八年

東照大権現乃作とうしょうだいこんげんのしやく

名徳院殿なとくゐん一いつつくつくくくくく

同十又年どうじゅうまたし後府ごふ一いつととひひくく同どうん

二十又人じゅうにまたひととああぐぐうう久く野の庭にわを

号ごうと

同十九年どうじゅうきゅうねん相列さうりつ中郡なかつぐんととひひくく

食邑しよくいふ又千石またせんごくととふふりり

同年

名徳院殿なとくゐん上うへ洛らくああくくくく聚樂くわくらく一いつ

おおろろくく事こと三年さんねん忠成ちかええれれ

にしづみくつた時に在
治料として江列よりとく二
千石の地と禄領と
文禄三年従五位下に叙し常陸介
小任と
寛文六年上総下総おきの内より
とくく米地一万千石とくく
くすくす
同年関東のをし職と掌て内後

修理亮清成と同くこれとく
同年騎士二十五人歩卒百人とあつ
けれ常列江戸騎よりとくく
この領地とくく
同十年

名徳院殿沙参内のも忠成騎馬
少く供なす
行列の最初より
あり

同十八年二月二十日に卒とく年

六十三 法名珠光通の院号圖宗

忠次

後七郎

母々天方山城守通貞入道夕雲が女
若年より

名徳院殿より近侍よりなる

文禄三年に死す年十九

忠俊

伯耆守 母よりおかし

天正十二年忠俊七歳のとき

大権現

名徳院殿より賜いなる

同十八年小田原陣のとき忠俊

十三歳より

名徳院殿にいつひつゝなる

同十九年

名徳院殿所在ゆれとす忠俊は

しりく上落し 湯前よりしりく

元服し友又郎 忠俊と号し

是又長又年 後又位下に叙し伯耆守

に任じ

同八年常列 江戸橋よりしりく

又又名の地とお領し 是又忠成

よりしりて 騎士二十又人 歩卒

百人とあつ

同十年

名徳院殿 御上落のとも 忠俊一組の只と

かりしりく 又又みしりくしり

同十二年 湯前院番の只とかふ

同十六年 野列麻沼よりしりく 又千

石しりくしりくしりく

同十八年 忠成率しりく 作よりしりて

を家督しりて

同十九年 大坂陣のとも 経中

よりしりく 率しりく 供なしりく

元和元年大坂再乱小も南へ
みなり平野にありし中
乃きとひるび忠後が郎從等
軍忠とてげふ
名徳院殿されと感づきし中
つち中士の数人軍功の賣り
あがり

日二年 作ありし
將軍家よりつてくる

日六年武列岩築乃城とて
こ乃とて力を知り又なる
一石とくし都て四万三
千石と評領と

日九年

將軍家將軍宣下評賀沙参 内乃時
忠後騎るに供なり武列の室初

あり

同年評勅氣とてめるとあり

名徳院殿乃作^{いんぎのうゑ}り^りと^とく^く名築の城と
あり^{あり}ども^{ども}、唐列^{てうりつ}大多^{たふ}在^ある^る城^{じやう}と^とる^る
城^{じやう}付^づ二万石^{にまんせき}なり^{なり}その^{その}うち^{うち}弟^{てい}大^{だい}花^か女^{にょ}持^ぢ
幸^{ゆき}成^{なり}と^と使^しと^とて^てき^きる^ると^と告^こぐ^ぐ
い^いろ^ろと^とく^く領^{りやう}地^ぢの内^{うち}に^に屏^{へい}
居^いる^ると^となり^{なり}お^おれ^れり^りと^とく^く又^{また}
大多^{たふ}在^ある^る城^{じやう}と^と然^{しか}と^とく^くお^お列^{りつ}海^{かい}村^{むら}と^と
退^{たい}居^けと^と

寛永二年

名徳院殿^{なとくゑん}より^{より}幸^{ゆき}成^{なり}と^と使^しと^とて^て
を^を別^{べつ}り^りと^と居^いる^ると^とく^くお^お列^{りつ}海^{かい}村^{むら}と^と
千^{せん}石^{せき}の^の地^ぢと^とる^る内^{うち}と^と
同^{どう}九^く年^{ねん}嫡^{てく}男^{なん}系^{けい}俊^{しゅん}次^じ男^{なん}系^{けい}作^{さく}と^と人^{にん}
涉^{せつ}五^ご免^{めん}と^とく^くお^お列^{りつ}海^{かい}村^{むら}と^と
向^{むか}ひ^ひ幸^{ゆき}成^{なり}が^が領^{りやう}地^ぢに^に居^いる^ると^とく^く又^{また}
向^{むか}ひ^ひ余^あり^り大^{だい}の^のゆ^ゆへ^へと^とお^お列^{りつ}
高^{たか}座^ざ郡^{ぐん}と^と泉^{いづみ}村^{むら}と^とく^くお^お列^{りつ}海^{かい}村^{むら}と^と
同^{どう}二^に十^{じゅう}年^{ねん}四^し月^{げつ}と^と辛^{しん}と^とく^く年^{ねん}

六十六 法名宗信

泰重

胡比奈孫太郎 母よりおなご
朝比奈宗左衛門尉泰勝養子と
子孫の系圖別よおと

幸成

雅樂助 大藏少将 生國を
母よりおなご

長四年幸成十四歳のとき

名徳院殿の御前よりしひく元服

一 友成と號と大久保相模守

忠隣 高令よりけり

市腰物より幸成はあま

同又年上秋景膳奥列り

謀叛と六月

大指現

名徳院殿東征一 小山宇都宮

市陣より幸成は

忠成とやうに信をいふ
七月石田治部少将三成歳内中
五九列乃兵とあもせ江列佐和
山一謀叛一伏見の城とこ
一恒をききまにいつく
大指現軍と西一江戸の湯城
小とひく軍兵と調くふ
東海道と行く浪列は湯を教

あり

名徳院殿と本曾路より伝列
教向一一向一途嶮難あり
急一一ると馳事ありいふ
わりのゆへは作よいく軍士
十又衆より下をききいふ
いふ事かたとなり
時一幸成十又歳六のゆへ
あつていふ事かたとなり

日六年沸番りくつる沸配
膳の役と列とむ

月七年下総玉臼井村よとむ
系地み百石とむ

日九年又月沸勃氣とかり
ゆりく同辰とむ

日年十二月沸五然とむ
同十年の表

名徳院殿沸入浴れとむ
徳院殿沸入浴れとむ

江列永原の沸殿とむ
作とむけとむり又沸配膳

の役とつとむる後沸参内
とむる後又位下り叙とむ

日十七年下総玉臼井村
とむる千石とむる

日十八年二月又忠成卒
つらとむる領地一万六千石とむる

小分とむるり幸成千又百石

と并願と

同十九年八月沛勃氣とが
ゆり

同年十月大坂沛陣より幸成
ひりく幕下より謁見御眷ち
忠俊が陣よりあり十一月冒先
手の兵と見えむ新時幸成
一騎平野より急よりと馳
然ともその間おころ幸一里む

りかれむ頼とむ事なむと
りるがゆへりこの日より升
掃部頭直孝より一厨より先
手にあり

元和元年正月大坂の圍と解
二月

名徳院殿江戸の沛城よりとせ
しるひ三月沛勃氣とゆふと
同年の夏大坂再亂よりと

四月十日リ 沛色發あり幸成
傳車とつゝいふ月七日大坂の
城にぐくに落諸軍先とあり
りて城中にぐれ入幸成
も又城中より入郎後木田人
首級とつゝり幸成されと率
て沛前より 福一 名徳
りあり

同年の秋

名徳院殿江戸の沛城小 還御

ありとく又月七日乃功と
金藏一 行ふとも并戸屋の助
吉山作十郎を山平太束父子
大指太束父子城中の柵の中
等用曲輪等の文にともひく
名敵乃首とともり沛前に
福とるとも幸成と調とあり
するよりと書とて迎友と云

も又玄上——くいそく敵と討
沛前より獨——くつてん
とひくもそ、疵とくゆり
歩つふそせらゆへ城中より
とひく幸成より岩と云く
あれよりうく幸成と云く
同せゆふと云、幸成のれが
院人とかふ
日又年常列新治郡七千石

筑波郡三千石都く一万石とく
く——く

同年 作とくゆり沛寺院番
からびよ沛小姓組小十人の組以
どう

同年 作とくゆりとく
評定乃席より列と
同九年並列天方村三千石と
く——くと云、 作

いそく外祖父天方山城守入道累
代の本領するよりいづれも
くださるゝとかり

寛永三年九月四日二條の亭に
行幸あり中宮同行啓るも
幸成騎るに似て供奉といふ
日又年十月 作とてゆり
な書り連判と

同九年正月二十四日

名徳院殿薨御の後

將軍家乃令よりいづれも
に連判と

同十年二月を別

二万六千名と領と

日十一年六月

將軍家入洛のとて晦日無川

の城より 遷御あり幸成御

となす八月 遷御のとて又

新川乃城より 渡津あり湯殿を
献ぐる事戸へのども一翌朝
七名之地とくく戸も其
同十二年八月持列厄崎の城
よりうつくす万石を領を
同十七年七月生駒氏欠玉乃
と年八月作をうけし戸あり
て井上筑後守政重ととりた
積列よりいより必政と沙汰を

通直

天方備あち 母上よおふ
介祖父天方通直が家と継
系國別よりおし

女子

母より同

川口長三郎 通次が妻

幸利

大膳亮

生母武藏

母を小お氏が女

寛永九年十二月二十九日

位下り叙

日十一年六月 入洛の供を

川口

幸通

左近

生母同お

母上におか

幸正

左近

生母同お

母上におか

幸高

左近

生母同お

母上におか

女子

堀養作守親昌が妻

女子

女子

某

虎助 生國武茂

母之加茂式部少輔明成が女

女子

宗俊

同幡守 母之太久保次左衛門尉忠佐が女

元和三年宗俊十四歳なり

名徳院殿

將軍家と稱し

同六年従五位下より叙し同幡守

より任じ

同九年

將軍家涉入洛乃とき、宗俊作とす

ゆり 名駕より一日先立ちて洛と

寛永三年父忠俊を列より遷と

たれよりいふもく宗俊もなづく

屏飛と

同九年涉無免とすゆり

同十八年涉本院妻乃頭とかり

武藏ね控あふ乃内よりとひく三

石の地と孫領と

宗佐

孫八郎 母よりおかど

外祖父忠佐や かひく子と

元和三年宗佐十歳乃とき

名徳院殿

將軍家より 謁よりなる

寛永二年忠俊左遷乃時宗佐も

おかしき列よりいふ

同九年清惠免とく々々
同年の冬清本院番の經より入
同十一年の冬倉祿と給る

忠榮

大學

女子

母京俊よりおふ

瀧川を改む

正利が妻

女子

母より同

稲系氏部少将一通書

女子

母より同

中根又吉清正次が妻

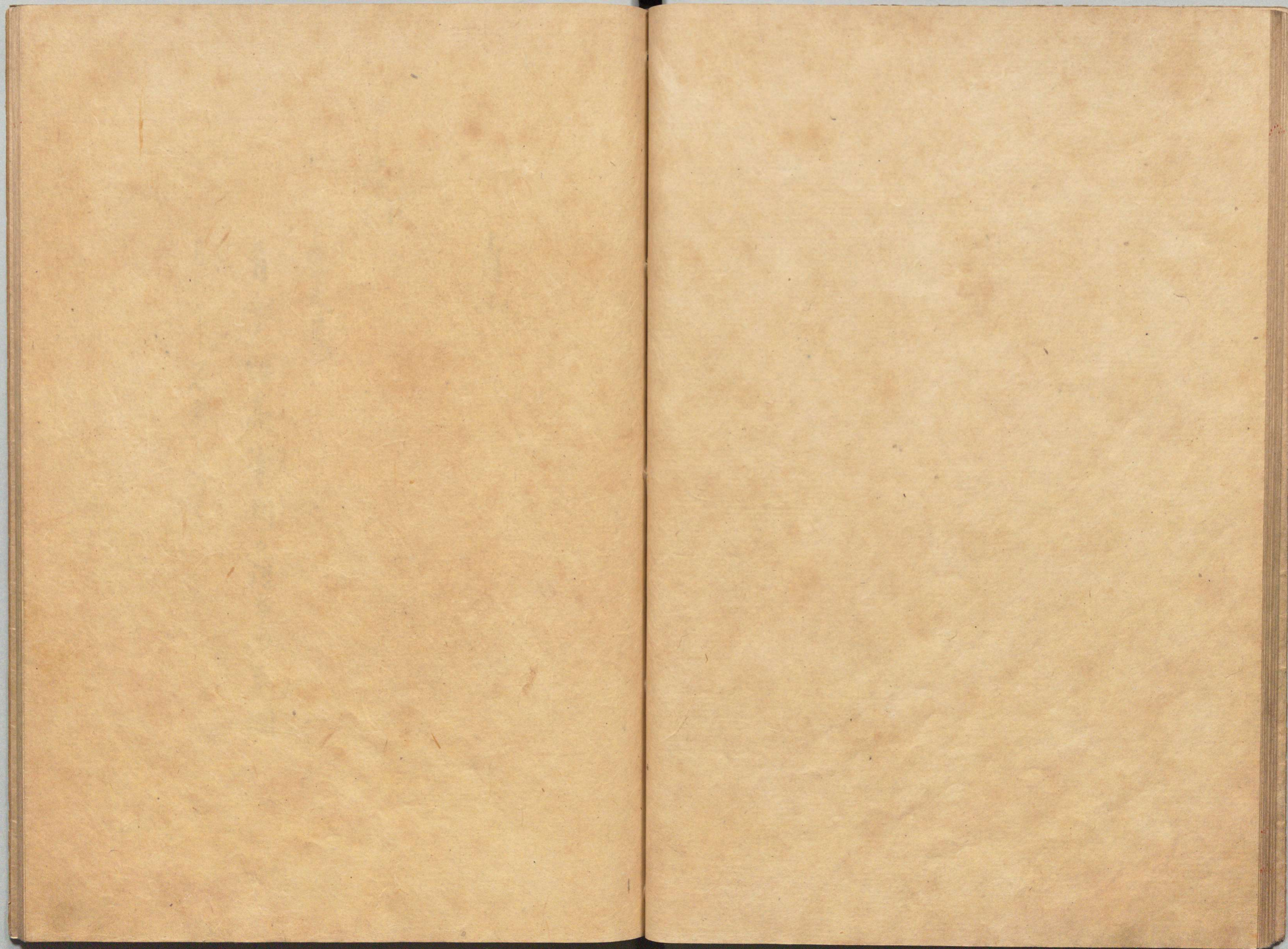
女子

母上に同

川口源吉清正信が妻

家紋 系菊一花二系

忠成より出来裏書と添紋とを



忠門

青山

喜大史

青山大膳亮 幸利が祖るり系圖

上りえろつて

同十二年正月十一日一死と案又

十九 法名昌露

重次

又六郎 生國よりわが

山とあゝゝゝ小林と称す

大指現よりつゝゝゝ

天正三年冬列 長藤名残

供より敵兵一人と討とる

同六年強列を同名残し供

同八年冬列色尾五陣乃と

供なり

同九年冬天神より供なり

同十二年四月九日尾列名久手

名残より供より沸る乃前

とひく敵兵本下勅解申討

と肩ととるときより敵兵と

持く重次が股と突又日抵と

ゆふ事三ヶ所なり重次と

うむひとわくふ

同十八年國東湯入玉乃水

長久寺よりとみく病と

うり行歩自由あふこふゆ

供をとりとあふこふゆ

とふり居とるのち江戸

み

元和又年十月六十七歳

病死 法名祐念

正成

善助 生國より

長久寺十二年八月二十一日

死

重勝

源太夫尉 生玉茂

長久寺十七年二月後弟重玉

付とありて伏見乃城

人権現じんけんげんより言上ごんじやうしていづくを長足ながあし身

もち又嗣子しよこもち一ちうたにいふ

市目付いちめつけとふけふりつて伏見ふし見の城しろは

おしむと孫まごがつくハ伯父おぢを次つぎが子こを

やふかひく子こととべーとちうや

よりとひくを勝かち釣つり命いのちとちうや

重しげ長なががま子ことちうや

名津院殿なつゐんてんよりつてなほとちうは重勝しげかつ年

十三ちう

元和げんわ元年大坂凱旋かいせん乃のちを長足ながあし

勢氣せいきとちうやとちうは重勝しげかつ作しやうより

よりく後河大納言ごがだいなごん忠長ただなが郷きやうよりちう

小姓こしやう組ぐみ乃の以もちちうのちちう河内かのみちち

よりあけける

寛永くわんえい十二年じふにねんよりおちかく治小姓ちこしやう

組ぐみ乃の盡じんとちう

重長

春日部 生必欠河

天正十二年重長七歳なりきし

ゆ

大権現より 祓禊

同十三年 名令とてけりりて

名徳院殿より 信人とてけりりて

大権現より 祓禊とてけりりて

作より 信人とてけりりて

とてけり

同十八年小田原陣より 信人とて

名令三年 信人とて

同六年 父正長より 信人とて

乃 信人とて 信人とて

同十二年 信人とて 信人とて

とて 信人とて

同十九年 大坂陣より 信人とて

元和元年大坂再陣乃ときしとき
ふもとをく城の中へ入ね戦と合
くともふら敵乃戦とくはひとり
つかり肩二級とぬかり
寛永十六年十一月四日一死と案
六十二 法名門来

利政

新九郎

生必茂翁

きなが頼子となる實ハ公助正成が
子かり

寛永十三年三月十八日

將軍家より孫瑞と

同年八月清小姓組より列一清書と
つとむ

重綱

若又郎

生必よりおふと

きぬれとや—かひくるといふ實は
源氏物語に勝るが子あり

家紋 葉菊

天方あまがた

家傳けでんよりいへくえき首藤しゅとうと称なづじ
そ後ごと通秀とむしゅうよりいへくを列れつ
天方あまがた乃城なりと名なとこ乃ゆへあ
しめ月つきと称なづ号ごうとと

秀郷ひささと代

公清こうせい

友承ともまさ尉

檢北けんきた遠使

佐友さともと号ごうと

母ハ石見守大江良真（むねま）の女

助清（すけはら）

主（も）る首（くび） 首藤（もとづ）乃（の）祖（そ）り 久列（ひさし）り
后住（きこう）と

助通（すけとほ）

首藤（もとづ）権（ごん）与（の）
源（みなもとの）於（を）義朝（よしとも）臣（みこ）乃（の）郎（らう）從（しやう）七（しち）騎（き）乃（の）内（うち）主（しやう）一人也

親清（ちか）

首藤（もとづ）太（たい） 左衛門尉

義通（よしみち）

刑部（けいぶ）丞（しやう） 山内（やまうち）と号（なづ）と

俊通（とよとほ）

源（みなもとの）に 刑部（けいぶ）丞（しやう）

保元平治乃同名哉乃とも義朝
あつひく屢軍功あり

後網

うめ乃名を後氏 三郎

経後

瀬口三郎

通基

山内六郎

通景

後月 淳正少弼

通保

七郎 大藏大輔 法名通岳

實ハ里見又太郎 氏義が子なり

通隆 みちたか

兵衛三郎 土衛門尉

小條の時滅亡乃とき、徳念よとひく
自害と

某

太郎

刑部丞

某

又三郎

主の首

通弘 みちひろ

藤内さ衛門尉

さる助

通秀 みちひで

三郎

其後与

法名泰三

是列天方乃城一居と云ふ
のち天方と称号と云ふ

通良

小左郎 大東尉 法名通清

通泰

又五郎 民部少輔 法名通仙

通貞

小左郎 藏人 法名通的

通季

又三郎 彈正少弼 山城守
法名通分 院号藏雲

通植

四郎

臣部久補

冬河守

法名

この普

院号長泉

通興

四郎三郎

三河守

乃ちよ山城守と

あゝむ

ろーめと川氏真一り所と氏真没

落乃ら石川伯耆守教正と奏者と

しそ

東照大権現

お瑞

な家

天正二年

大権現大久保七郎吉米の討忠世り命が

くを列乾乃城とせりむ時り

通興 作とるけりふらふるれが案

内者とうる是りりふらふるらち

大久保忠世が紹り所とるあむ

軍功あり

長元七年七十九歳なりと病歿と
法名夕雲 方太ると号すと

女子

天野宮内左衛門尉が妻

通永

吉作 法名通雪

殘道

お家

女子

伊豫田中右衛門尉一正が妻

女子

白幡庄左衛門尉が妻

通供

主殿

白幡庄左衛門尉これと妻とく子ととく

通秋とあき

二郎右衛門尉

女子

青山横磨守忠成あきやまのりむねの妻め

通之とち

長十郎

早世はやせい

女子

酒井仙右衛門尉重勝さかゐりの妻め

通綱とこう

孝後たけご与よ

乃ならりては城しろとあらう

しむ

通景とけい

四郎三郎

綱房つなふさ

半又郎

女子

通勝ちゆうしやう

門索もんさくと進しん大束たいしやくつ尉ゑい俊しゅん唯ただが妻めかけ

又また帝てい大束たいしやくつ尉ゑい

通正ちゆうしやう

金十郎きんじやう

乃ならよらよ主水しゅすいとわわるるじじ

女子

女子

小嶋こじま権けん大又だいまた好勝こうしやうが妻めかけ

女子

朝倉あさくら小刑こけい部ぶ元もと忍しのぶが妻めかけ

孝明きやうめい

従したが又また位い下げ織おり部べ正まさ

朝倉あさくら又また三郎さんじやう政まさ之の元もととやや

かひかひくく子ことともも

とくふり

同十三年九月又日二百八十石と
くふり

同十八年二月二十日実父忠成率

一〇のち忠成が領地とわたり千

六百石とくふりなり越く二子二百八

十石なり

同十九年大坂御陣より供なと

元和元年大坂御陣乃時供なと

つとめ又月七日天皇より乃過よとひく

戦功あり

同六年正月

名徳院殿乃作とくふり

乃とくふり

同九年正月あゝめく湯中院

素の領地とくふり

寛永二年十月廿三日新地乃御朱

下とくふり

同三年十月三日いごめいげ從父位下いごめいげに叙し
後いごめいげおちり任いごめいげじ

同七年十一月二十二日いごめいげに十二歳より
率いごめいげと法名いごめいげ常茂

若丸わがわら

母いごめいげを堀東市正利いごめいげの女いごめいげ早世いごめいげ

後直いごめいげ

父いごめいげ武列いごめいげ江戸に生家いごめいげ母いごめいげより

おちり

寛永三年後直九歳より初いごめいげく

名徳院殿

將軍家いごめいげに祿いごめいげ礼いごめいげより

同七年父通直いごめいげ死いごめいげしてのらるる

跡いごめいげより

名徳院殿より

同九年十月

將軍家より

同十三年十二月中根大隅守が
り居———湯書院番とてむ

女子

母ハより家ド———近藤縫殿助用一が
書

通次

友十郎

女子

家紋 一文字

